

経営比較分析表（平成28年度決算）

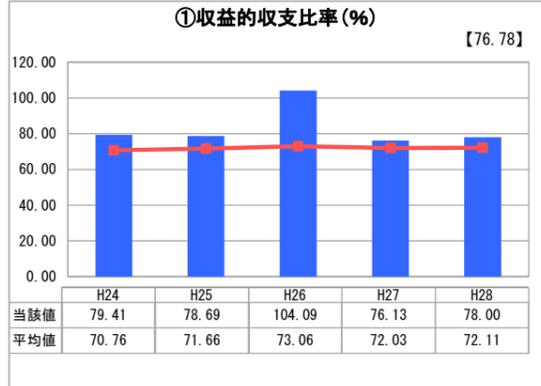
北海道 占冠村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	89.03	2,050	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,258	571.41	2.20
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,071	0.45	2,380.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



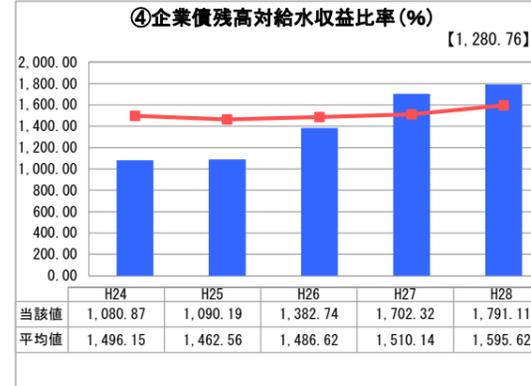
「単年度の収支」



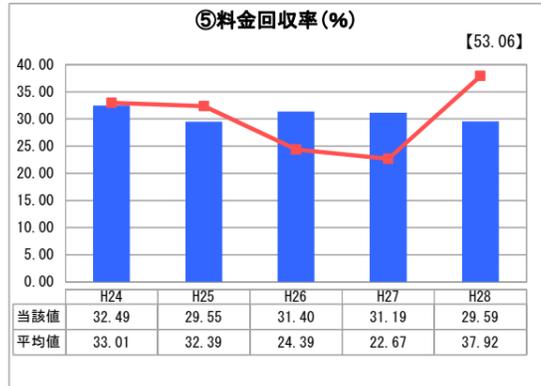
「累積欠損」



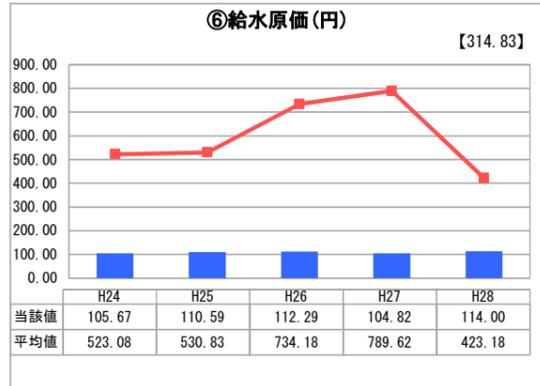
「支払能力」



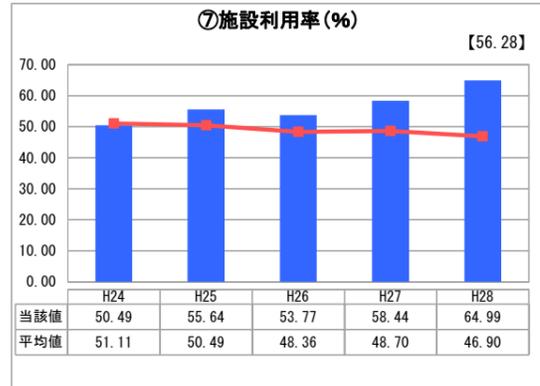
「債務残高」



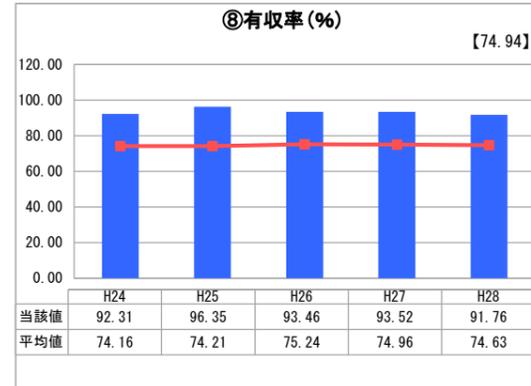
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

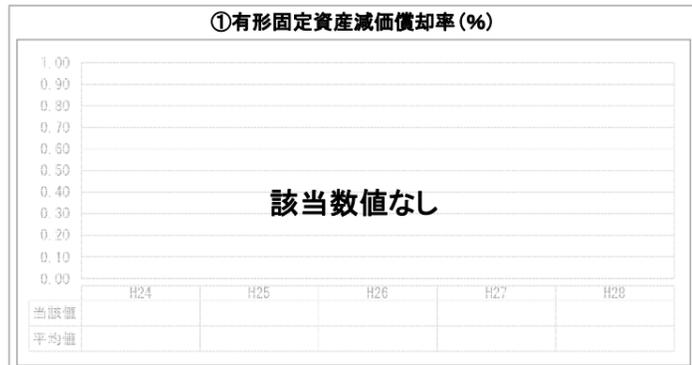
1. 経営の健全性・効率性について

主に老朽化による施設整備により債務残高が上昇傾向にある。それに伴い料金回収率や給水原価にも影響が出ている。施設の適正な運営を図りながら、有収率の維持、施設利用率の向上に努める。

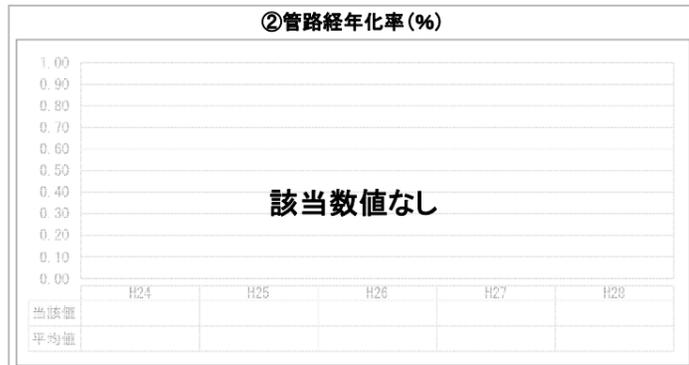
2. 老朽化の状況について

管路を含めた施設全体の老朽化が進み、日常的なトラブルが増えている。現在は維持管理や修繕等により延命措置を行っているが、更新時期を考慮しながら施設維持を図っていく。

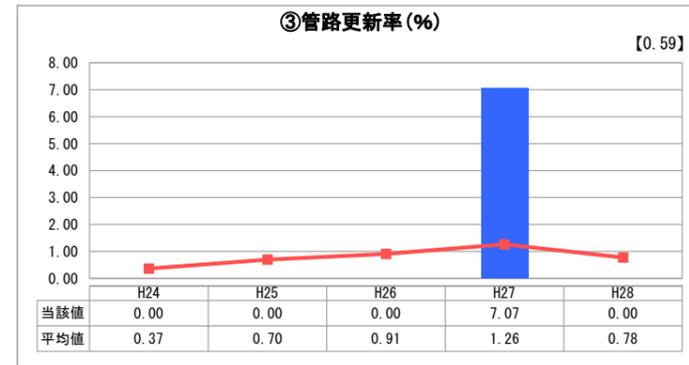
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

施設全体が更新時期を迎える中で、今後の施設更新を視野に入れながら全体的な経営の健全化を目指し、安定した供給が行えるよう努めていく。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。